

主 論 文 の 要 旨

Rituximab 投与脾臓温存 ABO 式血液型不適合者間腎移植と ABO 式血液型適合者間腎移植の比較検討

東京女子医科大学第四内科学教室

(主任：新田孝作教授)

三宮彰仁

移植雑誌 第 47 巻 第 6 号 462 頁～469 頁(平成 24 年 12 月 10 日発行)に掲載

[要旨]

2007 年 3 月から 2011 年 9 月までに当科で施行した ABO 式血液型不適合者間腎移植 100 例を血液型不適合群とし、同時期に施行した ABO 式血液型適合者間腎移植 100 例を血液型適合群とする matched case-control study とし比較した。

急性抗体関連型拒絶反応 (AAMR) は 2 群間に有意差はなかったが、急性細胞性拒絶反応 (ACR) は血液型不適合群 2 例 (2%) に対し、血液型適合群 14 例 (14%) で、有意に血液型不適合群のほうが少なかった ($p = 0.0018$)。血液型不適合群と血液型適合群の 1 年、3 年および 5 年生着率は、2 群間に有意差はなかった。

Rituximab は、抗血液型抗体をはじめ各種抗体産生を抑制すると考えられ、ABO 式血液型不適合者間腎移植にこれを投与し脾臓を温存する術式を確立した。血液型適合群と比較した結果、AAMR の発症率や 5 年生着率に差はみられなかったが、血液型不適合群のほうが ACR の発症率が有意に低下した。その要因として rituximab が B 細胞のみならず T 細胞の活性化を抑制した可能性が示唆された。